

米子市水道記念館（旧米子市水源池 旧ポンプ室）
米子市車尾

施設名	米子市水道記念館 旧ポンプ室
概要	RC 造、平屋
位置	35.428036 133.363614
竣工	大正 15（1926）年 6 月
訪問日	2019 年 6 月 25 日
訪問者	江原恭二



35.428036133.363614

【施設の概要】 米子市水道局 HP より

本建物は、大正 15 年（1926）6 月 29 日に竣工し、水道創設当時から昭和 45 年（1965）12 月までの間、車尾中央ポンプ場上屋及び監視室として上水道の安定供給を支きた。その後は米子市水道の創設当時をしのぶ歴史的な建造物として保存され、米子市制 60 周年記念事業の一環として、昭和 62 年（1987）11 月に水道記念館としてリニューアルオープンした。

外観は白壁に赤瓦、一部にアーチの窓があるロマネスク風のモダンな建築は、長年市民に親しまれてきましたが、平成 10 年（1998）2 月には鳥取県の「県民の建物 100 選」に選ばれ、また、平成 13 年（2001）8 月には隣接する水神社、創設記念碑と共に、国の登録有形文化財として登録された。

米子の水道のあゆみをパネルや写真で紹介し、昭和 20 年代から 30 年代に使用していた水位計や塩素滅菌機などの展示、古くから米子地方に伝わる水にまつわる民話の紹介、水道に関する VTR 観賞コーナー、平成 12 年（2000）10 月 6 日に発生した鳥取県西部地震で被災した水道管の展示など、水道の仕組みを幅広く紹介している。

【訪問記】

旧水源地のポンプ室として建設された鉄筋コンクリート構造建物である。当時木造建物が主流である時代に、鉄筋コンクリート構造が選定された理由は定かではない。米子町内に上水道を通すという課題に対し、その道の専門家に調査を委託し、計画を策定する中で決まったことであろう。

室内は展示スペースに改修されているが、鉄筋コンクリート躯体は漆喰塗で室内仕上げを兼ねており、現代建物に比べ、骨太の構造体となっている。果たして、当時はどうのような設計と施工上の管理値になっていたのであろうか？ 強度試験もままならない中で、コンクリート強度、配筋の決定など興味は尽きない。

【余 談】

『米子市上水道概要』米子市水道部編では、当時の様子がまとめられている。起工式（大正 14 年 3 月 10 日）米子町長・西尾常彦氏の祝辞には以下のような記述がある。

大正 11 年、上水道設置のための調査会を起す。上水道の緊急実施を諮り、満場一致で可決。調査費は 5 千円で即決。専門家に依頼し、大正 12 年 6 月設計完了。工費 70 万円。同年 起工認可・起債許可申請。国庫・県費補助申請。

大正 12 年 9 月 1 日関東大震災発生。主務省で審議中の稟議書類全て焼失。政府の財政緊縮方針となり、国庫補助絶望となる。本事業の財政計画の変更を余儀なくされた。国庫補助なくとも断行することとし、申請書類を再製提出。災害後事務の輻輳により審議が著しく遅れたが、大正 13 年 6 月起工認可、同 7 月起債許可を得た。

上水道設置にかける米子町民の意気込みを感じた。

 地 源 水 道 水 上 子 米	
竣工当時 [出典：米子市上水道概要]	昭和 30 年頃 [出典：記念館展示写真]
	
室内・展示物	室内・展示物

【見学案内】 平日 9:00 - 16:00 事前に下記へ問い合わせ確認の事

【米子市水道局 計画課 企画広報担当 電話 0859-32-6112】

参考図書『鳥取県の近代化遺産』-近代化遺産総合調査報告書- P.P.139

1998 年 3 月 編集：奈良国立文化財研究所、発行：鳥取県文化財保存協会